

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎学校評価資料  
—生徒，保護者，教師を対象とする調査結果—

令和3年3月

## (1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

### 【生徒・保護者用】

- Q1 中学・高校の別
- Q2 性別（生徒の性別）
- Q3 学年
- Q4 組
- Q5 SSH 科目受講の有無（中学生は該当せず）

生徒：「学校のように、あなたの1学期から今までの学校生活を振り返ってどう思いますか」

保護者：「学校のようにお子さまの1学期から今までの学校生活をどう思われますか。」

1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少しそう思う、4：そう思う

- Q6 この学校は、学校の考え方や目標をきちんと生徒に伝えている。
- Q7 この学校の先生は、生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
- Q8 この学校の生徒は、お互いを認め尊重しあっている。
- Q9 この学校では、先生と生徒がよく信頼しあっている。
- Q10 この学校は、生徒が成長するのにふさわしい環境である。
- Q11 この学校には、困ったことや悩みがあるとき相談できる相手がいる。
- Q12 私は将来の目標を持ち、それに向けて努力している。
- Q13 私は興味・関心を持って授業を受けている。
- Q14 私は学習において、予習・復習や課題の提出などに、普段から努力している。
- Q15 私はよく観察して調べたり、物事を考えたりという、探究の活動に積極的に取り組んでいる。
- Q16 私は他の生徒と協力して活動している。
- Q17 私は学校でまわりの人から理解されている。
- Q18 私は学校で、まわりの人を大切にしている。
- Q19 私は学校で、挨拶や礼儀に気を配って生活している。
- Q20 私は学校の決まりごとをよく守っている。
- Q21 私は学校でやりたいことができ、生活が充実している。
- Q22 私は今、学校生活において心配や、悩んでいることは特にない。
- Q23 私はこの学校のことを誇りに思っている。

【教師用】

Q1	中学・高校の別
Q2	性別
Q3	教職経験年数
	1 : 15 年未満, 2 : 15 年以上
Q4	生徒に将来の目標を持たせ、それに向けて努力させている。
Q5	探究的な活動を意識して、生徒に積極的に取り組ませている。
Q6	読解力や表現力の育成を意識して、生徒を指導している。
Q7	生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
Q8	予習・復習や課題の提出など、普段から生徒に努力させている。
Q9	生徒のようすをよく把握しながら指導や相談への対応ができています。
Q10	他の生徒と協力して活動するよう指導している。
Q11	人権を尊重した仲間作りを意識して指導している。
Q12	時間を意識した生活をするよう指導している。
Q13	学校にふさわしい服装を意識した生活をするよう指導している。
Q14	教室などの整理整頓や美化を意識した生活をするよう指導している。
Q15	本校の教育目標を理解して教育活動を行っている。
Q16	附属天王寺の中学生・高校生の両方に教師として関わりたいと思っている。
Q17	自分の指導目標や考え方は生徒に理解されている。
Q18	保護者への対応は自信を持ってできている。
Q19	職場環境を良くするよう努めている。
Q20	熱意を持って日々の仕事に取り組んでいる。
Q21	日常的に周りの教員と、生徒のことについて話している。
Q22	日常的に周りの教員と、教科や教育のことについて話している。

生徒・保護者及び教員ともに質問項目に、R1より変更した項目がある。

生徒・保護者版は、新たに「Q11 この学校には困ったことや悩みがあるときに相談できる相手がいる」を加え、全体の項目数が1つ増えて23となっている。

教員版は、R1の項目「Q15 生徒が充実した生活を送れるように努力している」を削除し、新たに「Q21 日常的に周りの教員と、生徒のことについて話している。」「Q22 日常的に周りの教員と、生徒のことについて話している。」を加えた。教員が生徒の様子を把握し指導する際に、職員間でコミュニケーションをしているかに着目して問いをたてた。

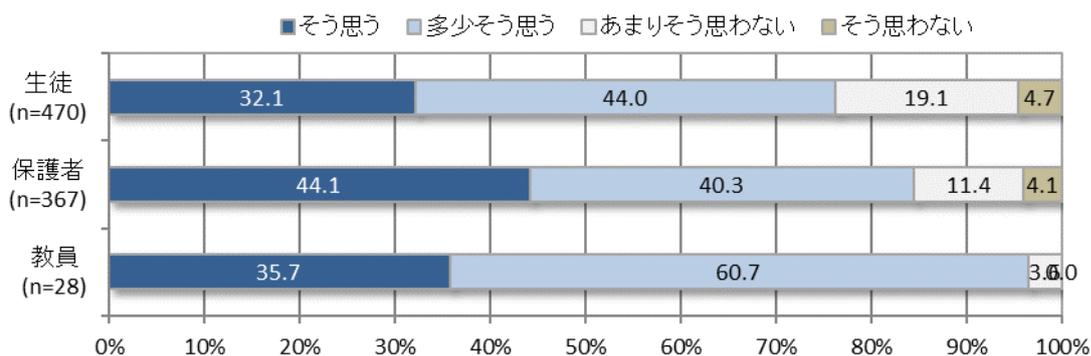
## (2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。

	性別		SSHの学習・指導の有無		学年		
	男性	女性	あり	なし	1年	2年	3年
生徒 (n=468)	232 49.6	236 50.4	136 29.2	330 70.8	157 33.5	158 33.8	153 32.7
保護者 (n=366)	177 48.4	189 51.6	109 29.9	255 70.1	123 33.6	123 33.6	120 32.8
教員 (n=28)	20.0 71.4	8.0 28.6	16 57.1	12 42.9			
全体 (n=862)	429 49.8	433 50.2	261 30.4	597 69.6	280 33.6	281 33.7	273 32.7

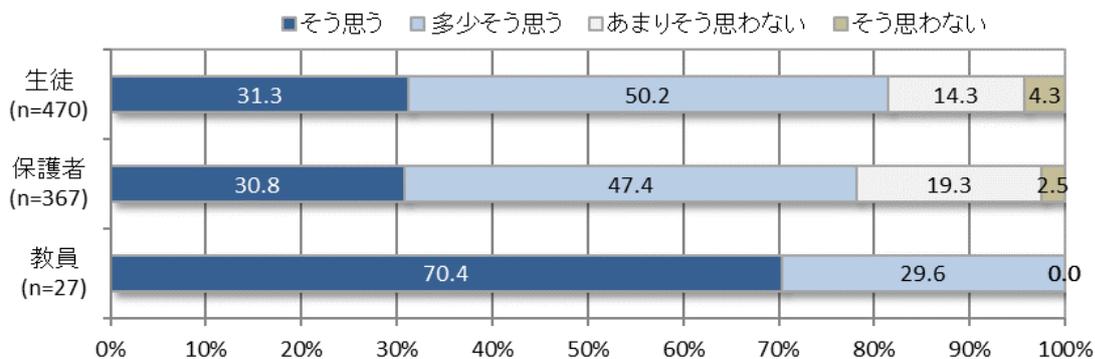
## (3) 学校生活にかかわる自己評価の（クロス集計）結果

### ① 将来の目標



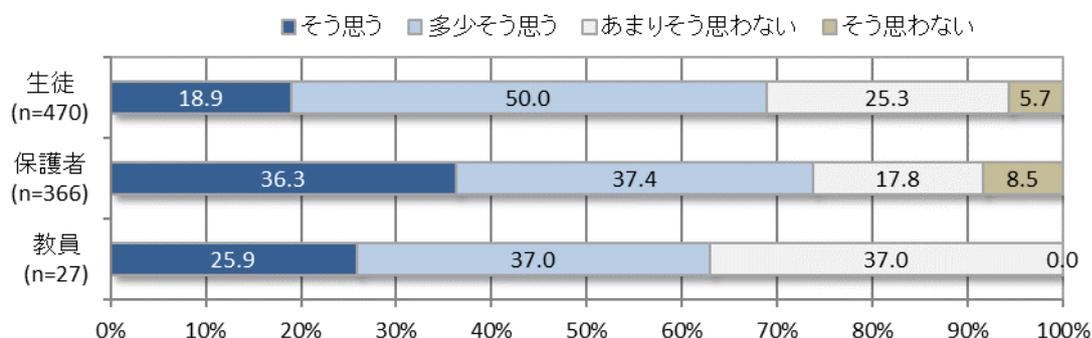
教員の9.5割、保護者の8.5割、生徒の7.5割が肯定的な回答をした。

### ② 授業の工夫



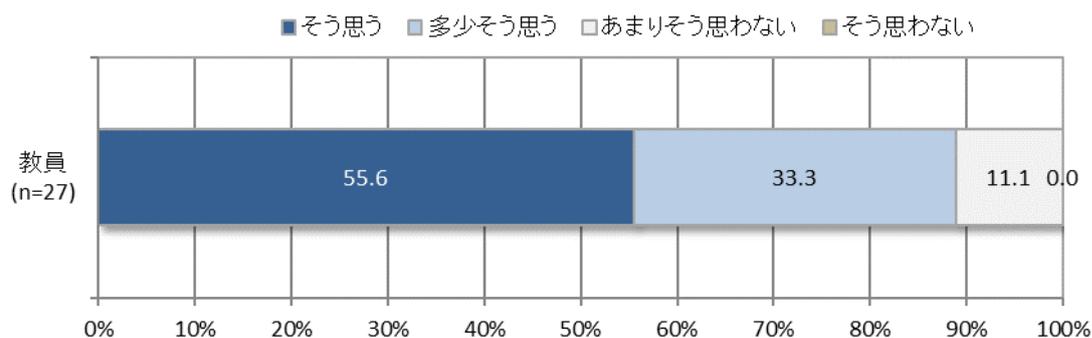
教員は全員が肯定的だが、生徒、保護者は8割程度にとどまった。

### ③ 予習復習



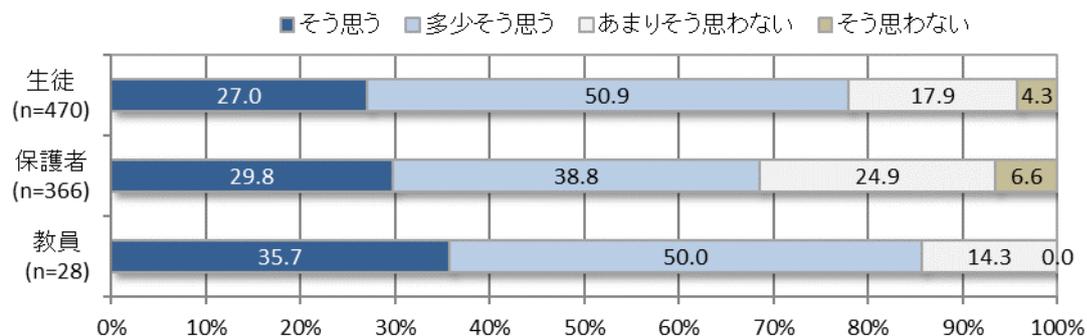
保護者の肯定的な回答の比率は7割で、生徒よりも高い。また教員は6割で生徒よりも低い。

### ④ 読解力や表現力育成の努力



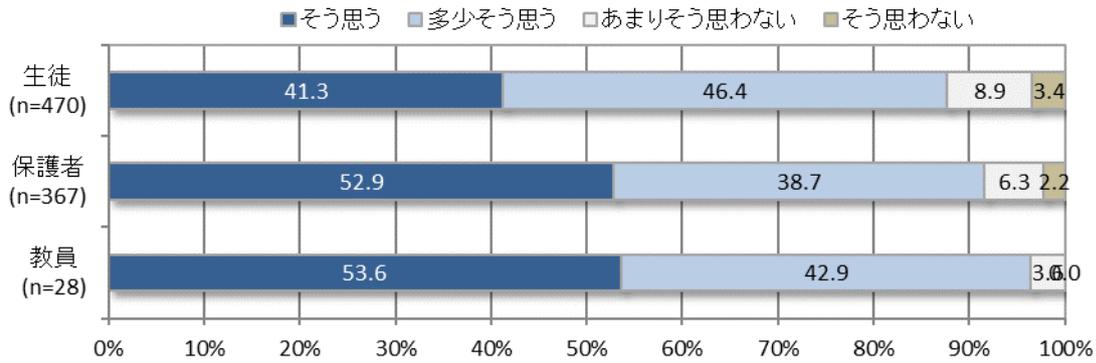
教員は9割以上が肯定的だ。

### ⑤ 探求的な活動



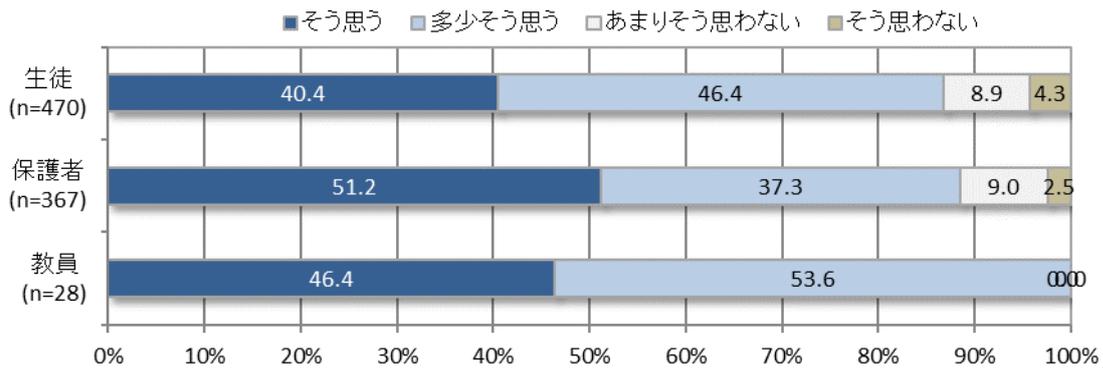
肯定的な回答が教員、生徒が約8割であるのと比べ、保護者はやや低かった。

### ⑥ 他の生徒との協力



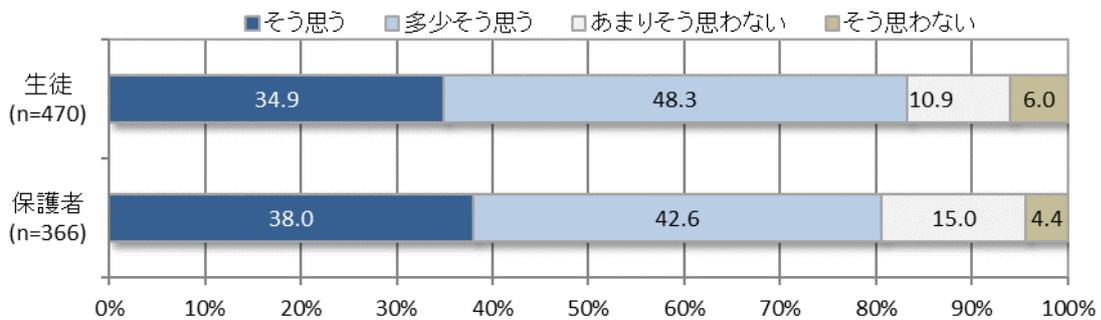
ほとんどの教員が肯定的な回答をしている。生徒、保護者は9割前後である。

### ⑦ 人権を尊重した仲間作り



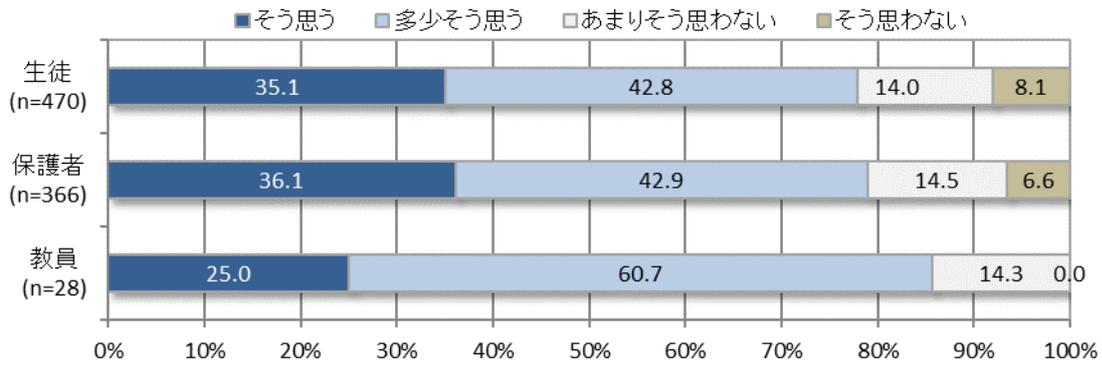
教員は全員が肯定的な回答をしている。また生徒、保護者も肯定的回答が9割近い。

### ⑧ 充実した生活



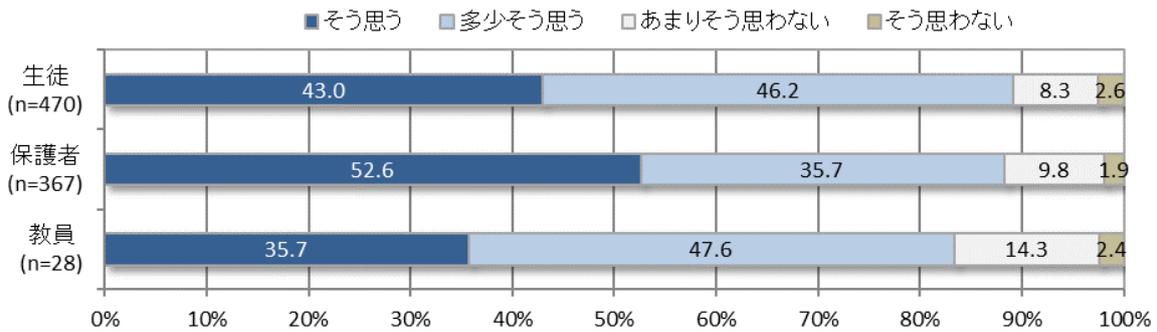
保護者、生徒ではほぼ8割であった。

⑨ 生徒の様子の把握



生徒、保護者、教員の回答に有意な差はない。

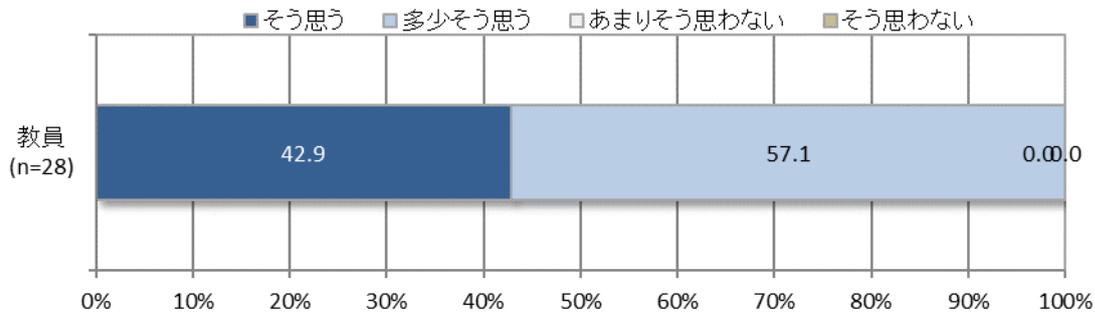
⑩ 決まりの遵守



肯定的な回答を生徒、保護者の9割弱であったが、教員は8割強であった。

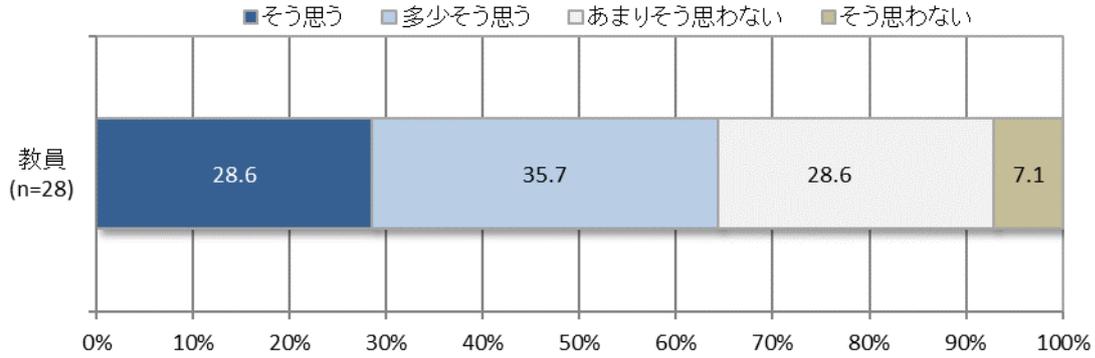
注) 教員の「決まりの遵守」は、教師用の「Q12 時間を意識した生活を指導している」「Q13 学校にふさわしい服装を意識した生活を指導している」「Q14 教室の整理整頓や美化を意識した生活を指導している」の3つの質問に対する回答の平均で代用した。

⑪ 時間を意識した生活の指導 ⑩に含まれる

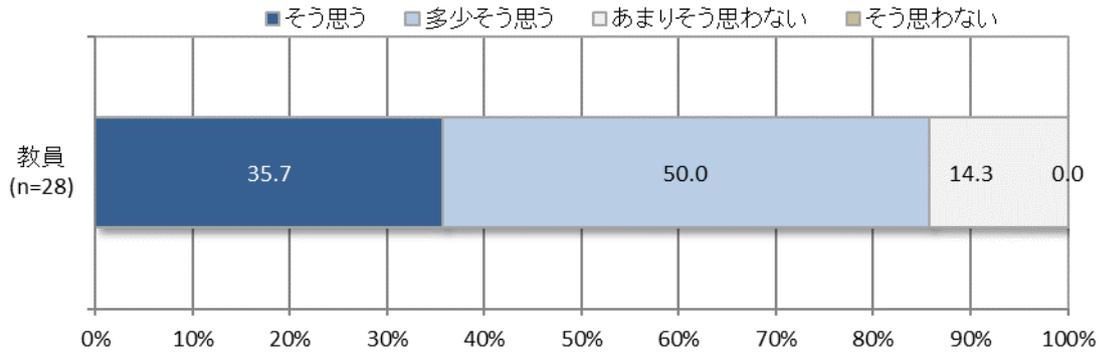


教員の全員が肯定的な回答である。

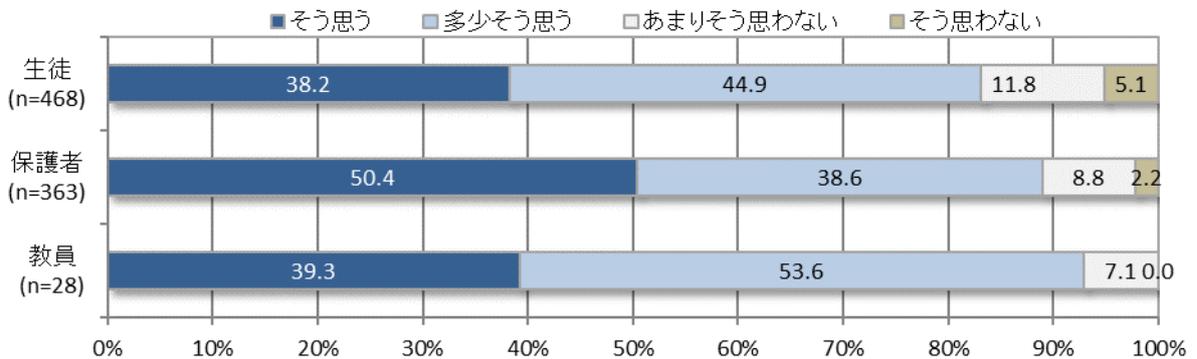
⑫ 学校にふさわしい服装の指導



⑬ 教室などの整理整頓の指導

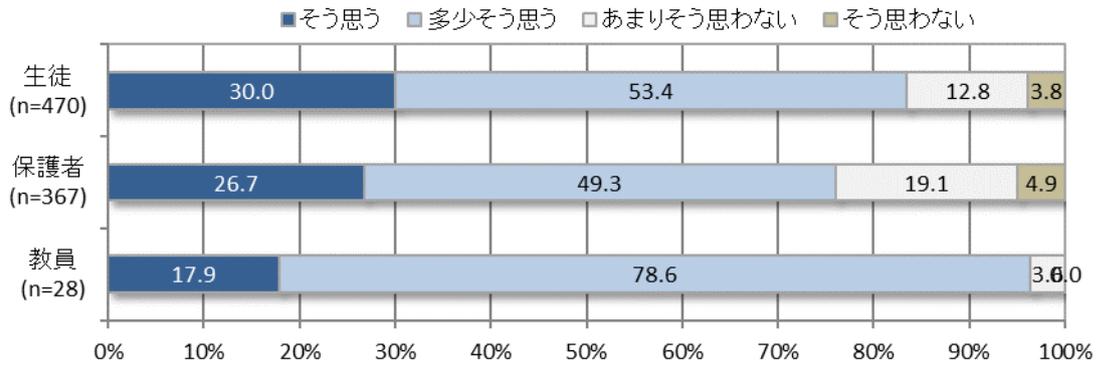


⑭ 学校への誇り(教員は本校の教育目標の理解)



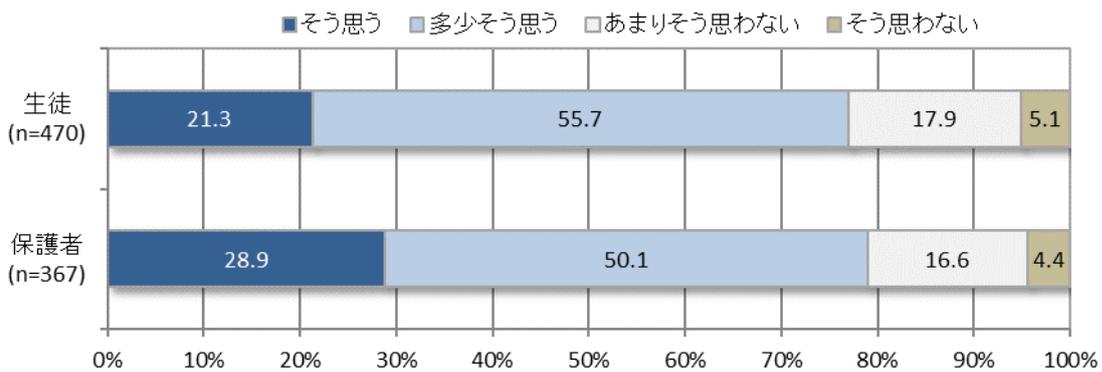
生徒、保護者は8割台であったが、教員は9割を超えた。

⑮ 興味関心(教員は指導目標)



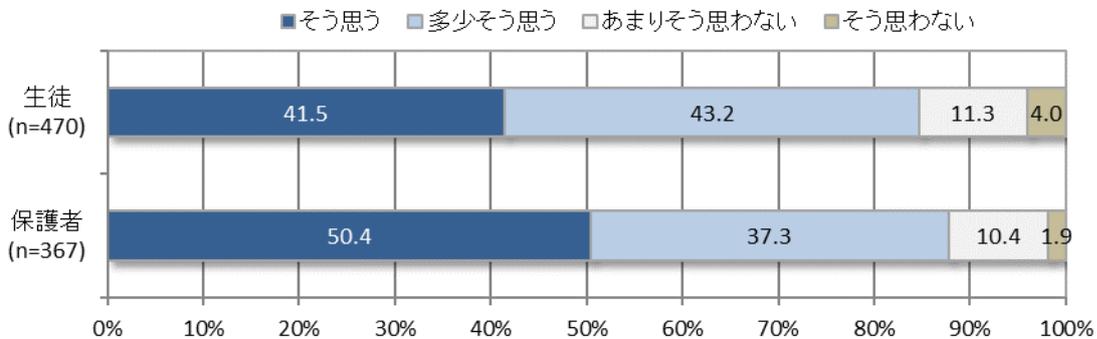
教員は肯定的な回答が9割を超えたが、生徒、保護者は約8割であった。

⑯ 教師と生徒の信頼

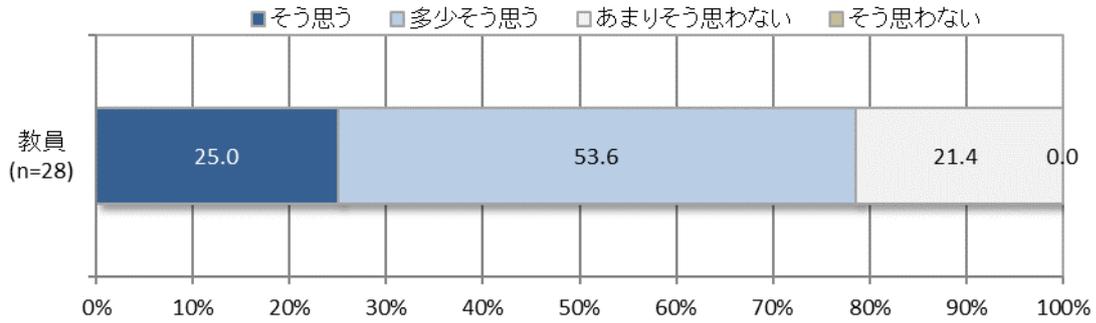


生徒も保護者も肯定的な回答が8割を下回っている。

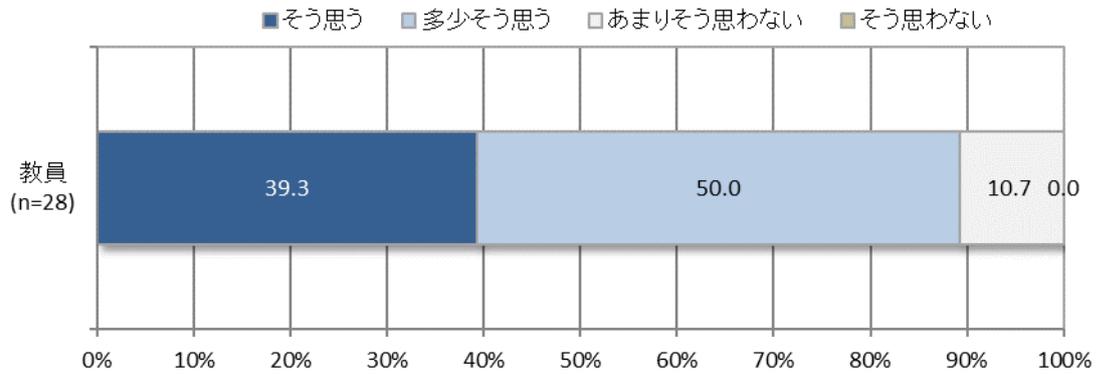
⑰ 成長にふさわしい環境



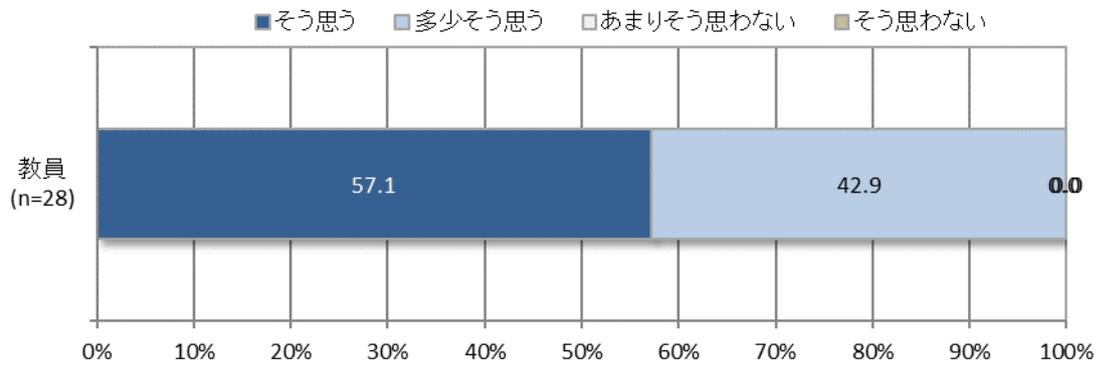
⑱ 保護者に自信を持って対応しているか(教員)



⑲ 職場環境を良くするために努めているか(教員)

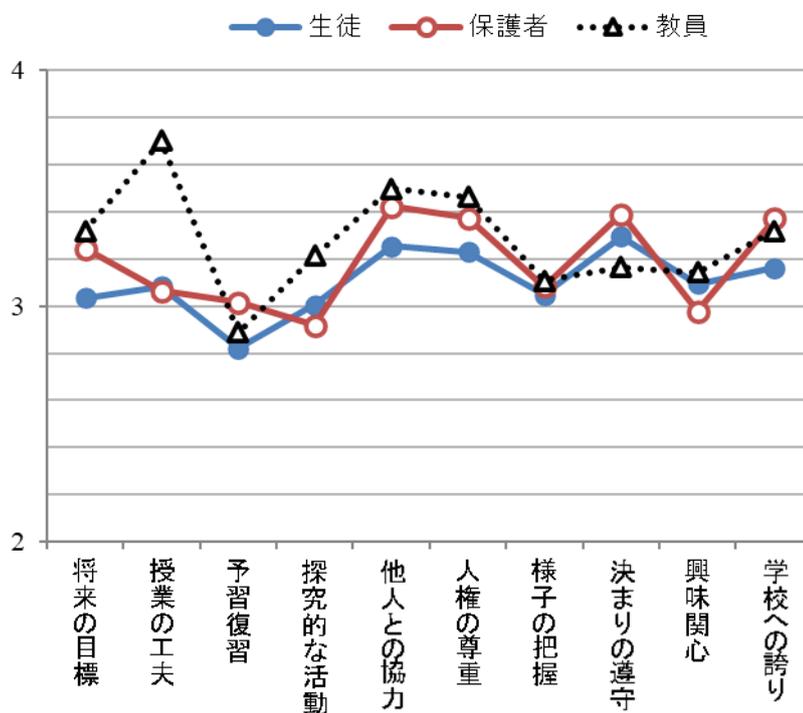


⑳ 熱意をもって日々の仕事に取り組んでいるか(教員)



#### (4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

##### ① 生徒，保護者，教員間比較

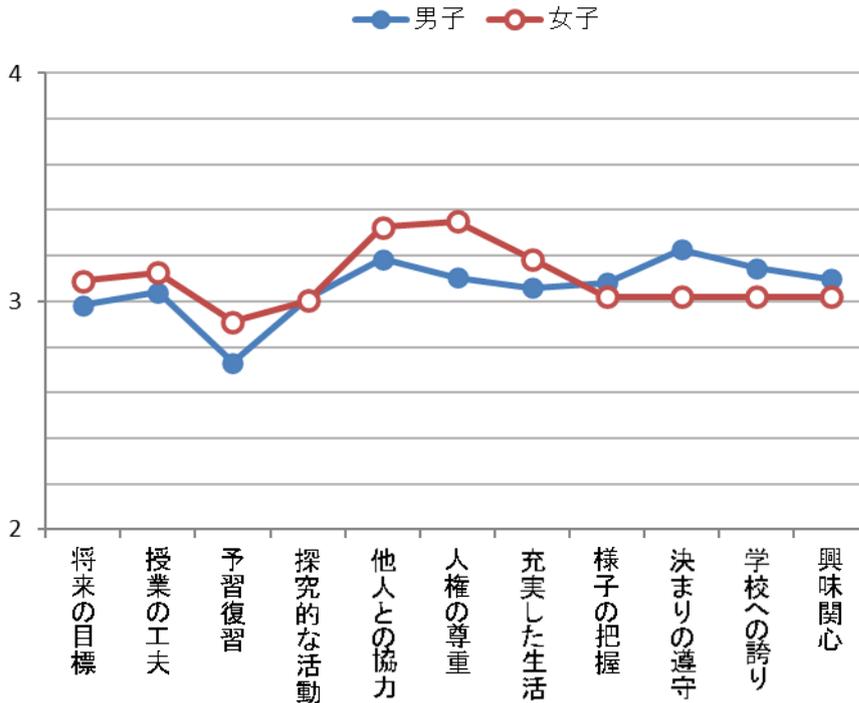


項目	生徒	保護者	教員	F値	有意水準
将来の目標	3.04	3.25	3.32	7.47	p<0.01
授業の工夫	3.09	3.07	3.70	8.67	p<0.01
予習復習	2.82	3.02	2.89	5.27	p<0.05
探究的な活動	3.01	2.92	3.21	2.35	
他人との協力	3.26	3.42	3.50	6.11	p<0.05
人権の尊重	3.23	3.37	3.46	4.35	p<0.05
様子の把握	3.05	3.08	3.11	0.20	
決まりの遵守	3.30	3.39	3.17	3.72	
興味関心	3.10	2.98	3.14	2.61	
学校への誇り	3.16	3.37	3.32	7.42	p<0.01

「将来の目標」から「学校の誇り」までの10項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして，生徒，保護者，教員の各項目に対する回答の平均を算出し，平均の差の推計に一要因分散分析を施した。

その結果，「将来の目標」を始め6項目に有意差が認められた。おおむね教員のポイントが高く，次に保護者、そして生徒という傾向が見られた。

② 生徒の性別による比較

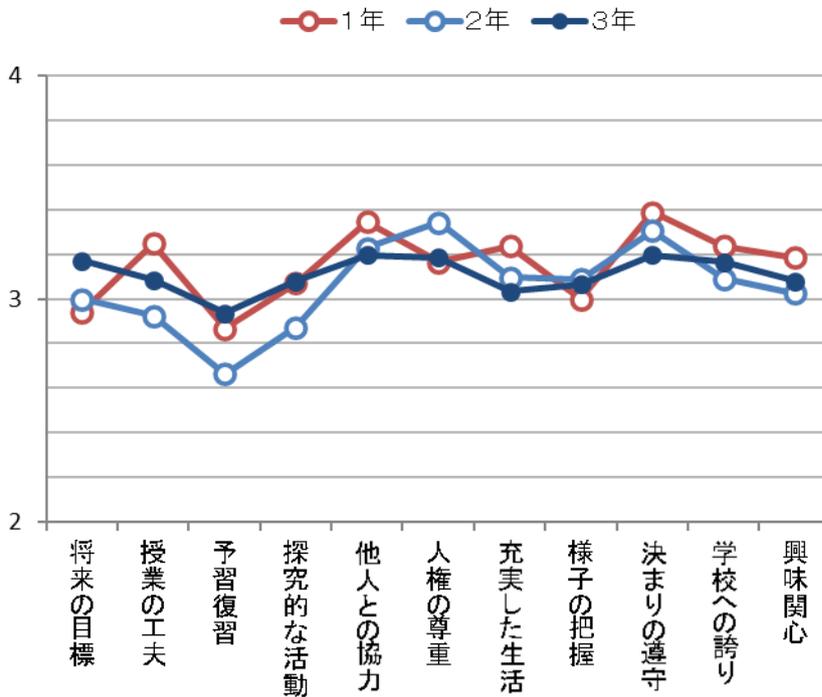


	男子	女子	t値	有意水準
将来の目標	2.98	3.09	1.38	
授業の工夫	3.04	3.13	1.21	
予習復習	2.73	2.91	2.43	p<0.05
探究的な活動	3.01	3.00	0.12	
他人との協力	3.19	3.33	2.02	p<0.05
人権の尊重	3.10	3.35	3.47	p<0.01
充実した生活	3.06	3.19	1.66	
様子の把握	3.08	3.02	0.73	
決まりの遵守	3.23	3.02	1.96	
学校への誇り	3.15	3.02	0.37	
興味関心	3.10	3.02	0.08	

生徒の性別ごとに、「将来の目標」から「興味関心」までの11項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして平均値を算出し、平均値の差を推計するために対応のないt検定を施した。

その結果、「予習復習」を始め3項目で性差を認めることができた。有意差の有無に関わらず、6つの項目において女子のポイントが男子より高く、5つの項目では男子のポイントが女子より高いという結果となっている。

③ 生徒の学年による比較



	1年	2年	3年	F値	有意水準
将来の目標	2.94	3.00	3.17	3.130	
授業の工夫	3.25	2.92	3.09	6.858	p<0.01
予習復習	2.87	2.66	2.93	4.863	p<0.05
探究的な活動	3.07	2.87	3.08	3.447	
他人との協力	3.34	3.23	3.20	1.628	
人権の尊重	3.17	3.34	3.18	2.420	
充実した生活	3.24	3.09	3.03	2.471	
様子の把握	3.00	3.09	3.07	0.406	
決まりの遵守	3.39	3.30	3.20	2.705	
学校への誇り	3.24	3.09	3.16	1.262	
興味関心	3.18	3.03	3.08	1.814	

「将来の目標」から「興味関心」までの11項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比等率尺度とみなして，各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出し，平均の差の推計に一要因分散分析を施した。

その結果，2項目で有意差が認められた。包括的に見ると，「授業の工夫」「他人との協力」「決まりの遵守」など6つの項目で1年生の回答がもっともポイントが高く、次に3年生が3つ、2年生が2つと続く。

④ 生徒の学年毎の組別比較

1年

項目名	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	2.73	3.10	3.00	2.95	0.14
授業の工夫	3.25	3.25	3.23	3.27	0.02
予習復習	2.65	2.90	3.00	2.92	0.13
探究的な活動	3.03	3.00	3.05	3.22	0.08
他人との協力	3.38	3.13	3.45	3.43	0.13
人権の尊重	3.18	3.13	3.15	3.22	0.03
充実した生活	3.15	3.15	3.40	3.24	0.10
様子の把握	3.08	2.93	2.98	3.03	0.06
決まりの遵守	3.33	3.23	3.43	3.59	0.14
学校への誇り	3.20	3.18	3.28	3.30	0.05
興味関心	3.10	3.10	3.23	3.32	0.09

2年

項目名	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	2.79	3.00	3.03	3.18	0.14
授業の工夫	2.87	2.81	2.90	3.13	0.12
予習復習	2.55	2.60	2.72	2.79	0.09
探究的な活動	2.74	2.77	2.97	3.03	0.13
他人との協力	3.16	3.05	3.15	3.58	0.20
人権の尊重	3.26	3.33	3.21	3.58	0.14
充実した生活	3.03	3.00	3.15	3.21	0.09
様子の把握	3.05	2.98	3.08	3.26	0.11
決まりの遵守	3.29	3.12	3.33	3.50	0.14
学校への誇り	3.13	2.98	2.97	3.30	0.13
興味関心	2.95	2.86	3.05	3.26	0.15

3年

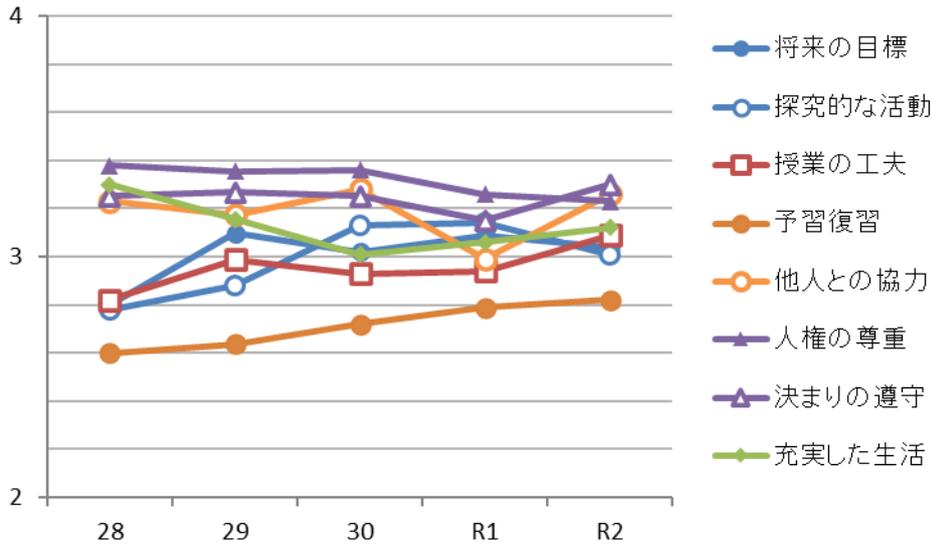
項目名	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	3.38	3.18	3.07	3.06	0.13
授業の工夫	3.03	3.33	3.00	2.97	0.14
予習復習	3.22	2.90	2.76	2.89	0.17
探究的な活動	3.30	3.20	2.88	2.94	0.17
他人との協力	3.35	3.40	3.05	2.97	0.19
人権の尊重	3.35	3.30	3.02	3.06	0.14
充実した生活	3.11	3.20	2.88	2.94	0.13
様子の把握	2.97	3.28	3.00	3.00	0.12
決まりの遵守	3.35	3.35	3.07	3.00	0.16
学校への誇り	3.24	3.45	2.95	3.00	0.20
興味関心	3.22	3.28	2.85	2.97	0.17

「将来の目標」から「興味関心」までの11項目に対する回答（1：そう思わない， 2：あまりそう思わない， 3：多少そう思う， 4：そう思う）を比率尺度とみなして，各学年のクラスごとに各項目に対する回答の平均値と標準偏差を算出した。

特に偏差が高い項目，学年は認められなかった。

### (5) 調査項目に対する回答の年度推移

#### ○生徒全体



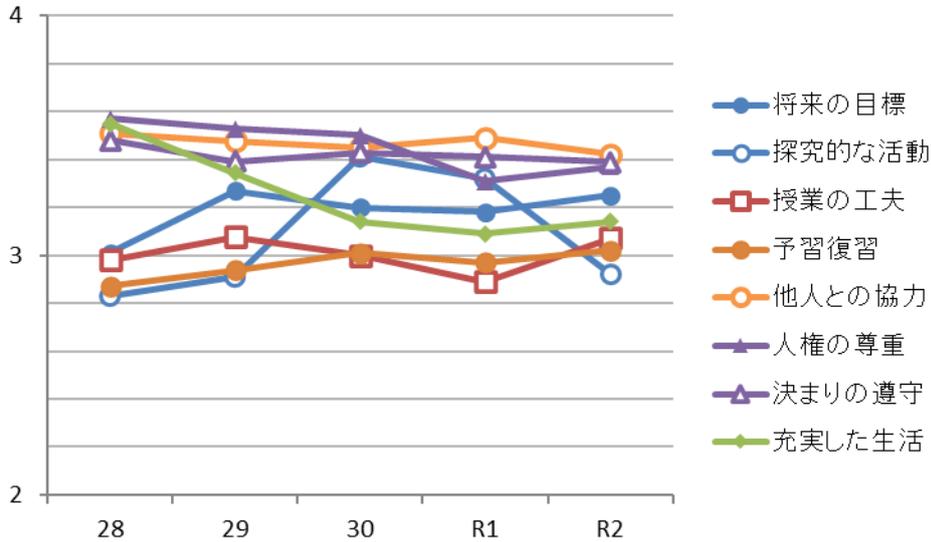
#### 生徒

年度 項目	平成28年度			平成29年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	481	2.80	0.85	397	3.10	0.78
探究活動	480	2.78	0.79	398	2.88	0.79
興味関心と授業	480	2.82	0.77	397	2.99	0.76
予習復習努力	481	2.60	0.82	398	2.64	0.89
他者との協力	480	3.23	0.79	397	3.17	0.78
他者の尊重	480	3.38	0.78	398	3.35	0.77
決まりの順守	480	3.25	0.78	398	3.27	0.77
学校生活の充実	480	3.30	0.83	398	3.16	0.84

平成30年度			令和元年度			令和2年度		
度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
477	3.02	0.83	447	3.09	0.82	470	3.04	0.84
476	3.13	0.76	444	3.14	0.80	470	3.01	0.79
477	2.93	0.79	448	2.94	0.79	470	3.09	0.79
477	2.72	0.85	445	2.79	0.88	470	2.82	0.80
477	3.28	0.72	446	2.99	0.79	470	3.26	0.76
478	3.36	0.72	447	3.26	0.76	470	3.23	0.78
477	3.25	0.73	447	3.15	0.78	470	3.30	0.73
477	3.01	0.84	446	3.06	0.87	470	3.12	0.83

「他人との協力」、「授業の工夫」のポイントが年を追うごとに増加している。しかし、「将来の目標」、「探求的な活動」「人権の尊重」は減少に転じている。それ以外の5つの項目は増加傾向にある。全体的に、経過を見守る必要がある。

○保護者



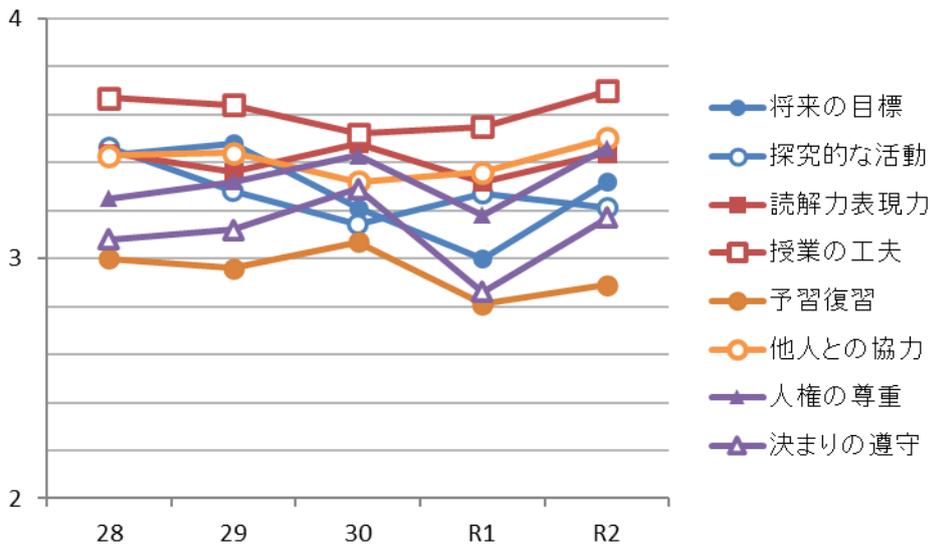
保護者

年度 項目	平成28年度			平成29年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	327	3.01	0.91	396	3.27	0.76
探究活動	327	2.83	0.90	395	2.91	0.87
興味関心と授業	327	2.98	0.86	397	3.08	0.82
予習復習努力	327	2.87	0.96	394	2.94	0.94
他人との協力	325	3.51	0.67	395	3.48	0.66
他人の尊重	326	3.57	0.61	395	3.53	0.62
決まりの順守	326	3.48	0.67	394	3.39	0.70
学校生活の充実	326	3.55	0.73	394	3.34	0.75

平成30年度			令和元年度			令和2年度		
度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
319	3.20	0.80	308	3.18	0.83	367	3.25	0.81
320	3.41	0.64	308	3.32	0.75	366	2.92	0.90
319	3.00	0.78	307	2.89	0.85	367	3.07	0.77
320	3.01	0.89	308	2.97	0.97	366	3.02	0.94
320	3.45	0.66	308	3.49	0.67	367	3.42	0.71
320	3.50	0.62	306	3.31	0.72	367	3.37	0.75
319	3.43	0.70	308	3.41	0.75	367	3.39	0.74
320	3.14	0.83	308	3.09	0.86	366	3.14	0.83

「探求的な活動」が減少した。これが一時的なものであるのか、経過を見守る必要がある。他はおおむね横ばい状況である。

○教員



教員

年度 項目	平成28年度			平成29年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	28	3.43	0.63	25	3.48	0.64
探究活動	28	3.46	0.64	25	3.28	0.66
聞く伝える	27	3.44	0.75	25	3.36	0.56
興味関心と授業	27	3.67	0.56	25	3.64	0.48
予習復習努力	27	3.00	0.68	25	2.96	0.82
他者との協力	28	3.43	0.57	25	3.44	0.64
他者の尊重	28	3.25	0.65	25	3.32	0.61
決まりの順守	28	3.08	0.78	25	3.12	0.77

平成30年度			令和元年度			令和2年度		
度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
28	3.21	0.72	22	3.00	0.60	28	3.32	0.54
28	3.14	0.91	22	3.27	0.69	28	3.21	0.67
27	3.48	0.63	22	3.32	0.70	27	3.44	0.68
27	3.52	0.74	22	3.55	0.58	27	3.70	0.46
27	3.07	0.86	21	2.81	0.85	27	2.89	0.79
28	3.32	0.76	22	3.36	0.64	28	3.50	0.57
28	3.43	0.73	22	3.18	0.72	28	3.46	0.50
28	3.29	0.80	22	2.86	0.76	84	3.17	0.75

「探究的な活動」はやや減少したが、それ以外の項目は全て増加している。